

視聴覚教育

映像文化への対応

視聴覚部長 中山 昌司

子供も大人も日常生活の中でテレビは欠かせない存在になっている。何げなく見ている時間が多いなかで、好きな番組になるとテレビの虜になってしまふこともある。その時の目は正に輝いている。目が輝くときは、何もかも忘れてそのことに集中できるときでもある。

映像文化の普及は生活だけでなく、教育の現場にも大きく影響を及ぼしていることは言うまでもない。特に、記録・再生が手軽にできるビデオ機器の普及で、教室での一六ミリ映画の利用が少なくなり、ビデオ教材にとって変わろうとしている。今後、その傾向はますます強まるものと予想できる。

映像教材は、ただ単に利用すればそれでよいというものではない。当然、それに伴う学習効果が問題になってくる。学習目標に到達する手段としての利用である以上、内容の適否や活用

No. 207

発行日 6. 11. 1

発行

岡崎市AVL

編集

広報委員会

視聴覚キーワード
『CD-ROM』
現在、最も一般的な読み込み専用の記録媒体。自由な書き込みはできないが、プログラム、文字、音声、画像などを通常のフロッピーの約50倍ものデータが記録できる。

のタイミングなどの工夫が必要になる。それには、特に、子供たちの目をいかに輝かすかという観点からの、創意工夫が求められる。

驚きや感動を与える映像は子供の心を強く引き付け、目の輝きを生む。また、子供にとって身近なものが映像となって示された場合でも目を輝かす。それは、子供たちに生きて働く教材であるかどうかということになる。

テレビの教育放送番組は、内容的によく研究されているため、視聴中の子供たちの目は輝いてくる。しかし、授業の流れの中で、指導者の視聴意図が曖昧であると、感動が薄れ、学習効果は半減するという危険もある。したがって、学習の流れに沿って如何に提示していくかも、子供の目を輝かす大切な要素になる。

テレビ、ビデオを中心に映像文化が身近なものとなっている。時代の流れに逆らうことなく、機器操作に慣れ、子供の目を輝かすための効果的な利用に努めたいものである。



|| 視聴覚教育あれこれ ||

全国自作視聴覚教材

コンクール入賞

去る十月二十五日、全国自作視聴覚教材コンクールが東京で開催されました。全国各地から多数の応募(103作品)があり、同コンクールにおいて、社会科部、理科部と視聴覚部で制作した自作ビデオ四作品が栄えある賞に選ばれました。

〈文部大臣賞〉

小学校部門

「三河湾のクルマエビ漁」 11分9秒

小五社会 社会科部・視聴覚部制作

中学校部門

「ゲンジボタルの里」 11分40秒

中三理科 理科部・視聴覚部制作

〈優秀賞〉

小学校部門

「玉子 その安さの秘密」

「養鶏農家をたずねて」 12分38秒

小五社会 社会科部・視聴覚部制作

〈入選〉

小学校部門

「石工業の新しい動き」 12分45秒

小五社会 社会科部・視聴覚部制作

十二月二日(金)午後一時より、東京虎ノ門の国立教育会館において表彰式の予定。

8ビットパソコンの利用

矢作中学校 杉浦 修

「ここを、BFにすると、色が塗れるんだ。」I男の得意げな声が響く。「オオー」とパソコンを囲んでいた生徒から感嘆の声があがる。

本校では、32ビットパソコンが導入され、8ビットパソコンの利用は、パソコン部1年生がキーレックスに利用するなど、一部の生徒だけになっていた。そこで、昨年度はこの8ビットパソコンを、選択履修で利用するようにした。だが、これも本年度から16ビットパソコンで行うようになり、再び利用度が少なくなってしまう。

この8ビットパソコンは、スイッチオンで即ベシックプログラムが動くことから、プログラムのアルゴリズムを教えるには、32ビットパソコンよりも手軽な面がある。機器の有効利用と技術科でのパソコン授業の復習・発展の利用を考えて、3年生の各教室に置いてみることにした。

利用状況としては、やや一部の生徒に偏っている感はあるが、一心にテキストのプログラムを打ち込んでいる



I男のような姿も多く見られた。

授業での活躍はあまり多くないI男であるが、機械いじりが好きで、2年生の時にはパソコンの選択授業を取っていた。それで、休み時間になると、パソコンの前にとんで来るのである。I男にとってこの休み時間は、友達の前で輝く楽しい時間となっている。

II レッツ トライ II

パソコンの効果

「オリオン座はここにあるんだね。」

「時間がたつと位置が変わっていくよ。」

パソコンの天体シミュレーションの画面を見ている子供たちの会話である。子供たちに少しでも星座を知ってもらい、観察の体験をしてもらおうと、冬の夜に天体教室を開いた。教科書で星座の形は知っているが、実際の空は広くて、星座早見盤を使ってもなかなか見つけにくいものである。そこで活躍するのが、パソコンによる星座のシミュレーションである。時刻と緯度、経度を入力すれば全天の星座がディスプレイされ、時間により変化していく。子供たちは画面を見て、位置を確認しながら外で実物の観察をする、という手順である。一台しか導入されていないパソコンであるが、子供たちの興味を引き、観察の効果はずいぶんあったと思っている。

(六南小 浅井 近)

ライブラリーだより

☆岡崎市視聴覚ライブラリー40周年記念式

本年度は岡崎市小中学校視聴覚教育協会が昭和29年に発足して以来、40周年に当たります。この記念事業として、多くの方々のご協力により40周年記念誌の編集が進められ、いよいよ校正の段階になりました。皆様のご労苦に感謝。

また、この40周年を祝う式典が次のように予定されています。この式典と同日・同会場での事業である岡崎市フルネットワークプロジェクトの開所式も行われます。

〈平成六年十一月四日(金)福祉会館6F大会議室〉

(1) 岡崎市視聴覚ライブラリー40周年記念式

・受付 午後0時30分

・式典 1時

(2) 記念講演 1時45分

・講師 上智大学文学部教授 高桑康雄氏

高桑康雄氏

(3) 開所式 2時30分

(4) 公開実験 3時

(5) 岡崎リサーチセンター施設公開 3時30分

☆自作本編集

10月11日(火)、自作C班を皮切りに、本年度の自作本編集が始まりました。

夜遅くまで、先生方の熱心な討論、編集作業が続いています。

心な討論、編集作業が続いています。

